

## 数学序論・同演習に関する注意

- (0) 数学リテラシー（「数理解析 0」の名称変更）について：数学リテラシー未合格の学生の評価点は数学序論の評価点から 40 点を引いた点数（100 点の学生は 41 点引いた点数）である。数学序論の評価点が 60 点以上で、1 年生の間に合格できなかった学生は、数学リテラシーに合格した時点で、数学序論担当者にその旨を申し出ること。
- (1) 数学序論と同演習を一体のものとして取扱う。演習の時間にも講義をするし、数学序論の時間にも演習をする。評価点・単位も一体のものとして取り扱う。
- (2) 私語禁止。私に対する数学的質問は私語ではないので、随時（私の話している途中でも）してかまわない。
- (3) 食事禁止。飲み物は可とする。
- (4) 教室への出入りは自由ではない。途中入室・途中退室は自由だが、再度入室する意思をもって退室する場合は私の許可を得てから退室する事。
- (5) 携帯電話の電源を切らなくともよいが、講義中はサイレントモードにし、時計機能以外は使用しないこと。
- (6) これから講義で配るプリントは Renandi から閲覧できる。試験等の連絡も Renandi で行う。欠席して要綱が手に入らなかった人は自分で要綱をダウンロードすること。  
予習したい人はネット上の要綱を参考に。ただし、要綱は修正される場合もある。
- (7) 再履修の人への注意： 数学序論と同演習（「基礎数学」の名称変更）の履修届は同じクラスにすること。出席は履修届のクラスと異なってもかまわない。  
履修届提出後の適当な時期に、Renandi にアクセスして数学序論（河野担当）・同演習（河野担当）が表示されるか確認すること。履修届け未提出の場合単位提出はできない。
- (8) 大学の数学についての注意。
  - 1) 大学は講義だけ聞いて理解できるという想定をしていない。講義が演習・実験に比較して、同じ時間で単位数が

多いのは、講義と同じ時間の予習・復習(合わせて講義時間の3倍)をすることを前提としている。

- 2) 講義をしっかりと聞き、分からない所はその場で質問をするように(もちろん後での質問がダメというわけではない)。
- 3) 講義内容の変化に注意すること。高校では、問題を解くのが中心で、所謂「模範解答」というものが有った。しかし大学では中身(定義・定理)を正確に(論理的に)理解するということが中心になる。問題はその補助手段である。
- 4) 受験勉強の悪影響である「丸暗記」は逆に理解を妨げることが多い。「理解する」ことを基本に学習を進めることを強く推奨する。
- 5) 大学の先生は高校の先生程「親切」ではない。学生を「大人」として扱う。自分から action を起こさない限りめんどろは見えてくれない。教師を上手に「使う」か否かで学習効率にも違いがある。

#### 試験について

試験は3回行う。2クラス同時に行なうので、講義時間以外の時間に行う。

第1回試験	6月1日(木)	18:30~20:00	1章~2章
第2回試験	6月22日(木)	18:30~20:00	3章~4章
第3回試験	7月20日(木)	18:30~20:00	5章~6章

不合格だったものを対象に後期に入ってから再試験を1回だけ行う。それで不合格なら再履修となる。